

ライフケアガーデン熱川 別館

症例概要 入居者：80代 女性 要介護3

病名：びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫、胸髄浸潤、対麻痺、膀胱直腸障害

甲状腺機能低下症

経過：13人姉弟の末っ子として出生。地元で結婚し2人の子供を育てた後は夫の経営する居酒屋を手伝う。夫に先立たれてからは長男家族と同居していた。

2022年12月頃から転倒を繰り返すようになり腰椎圧迫骨折を受傷し入院する。2023年1月、下肢の重度の筋力低下や膀胱直腸障害が出現。精査の結果、びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の診断でがんセンターに相談するもすでに治療は困難であった。ご家族は日中仕事で出かけており、介護力が乏しいことから入院先より相談を受け、2023年3月に当施設入居となる。

内 容

発症された癌は進行が早く、入居された時点で余命10ヶ月の宣告を受けていました。麻痺の症状が進行し、腰からは感覚がなく動かすことが出来ない状態です。呼吸機能も低下し腰椎骨折による痛みや息苦しさに常時耐えている様子で、時には希望を失ったような暗い表情となっていました。

そのような中、5月にお孫さんの結婚式があり当初は参列予定であったこと、参列は出来なくともリモートで参加することは可能かとご家族から相談を受けました。ご入居者に何うとお孫様との関係は良好で、成人してからも毎年東京から伊豆に遊びに来ていること、結婚相手のご主人と自宅まで挨拶に来てくれたことを嬉しそうに話し、是非とも結婚式の様子を見たいと目を輝かせておっしゃっていました。

そこで、理学療法士は座位練習や体力維持のリハビリを実施、看護職員や介護職員はケアの際に結婚式の話を出すことで前向きになるよう積極的に声掛けを行いました。また、事務員はご家族や結婚式場と交渉し、通信や進行で滞りがないよう段取りを進めました。

ご入居者は目標があることで体操やリハビリを積極的に取り組み、次第に明るい表情や前向きな発言が多くなりました。

迎えた結婚式当日、参列時に着る予定だった洋服に着替え、介護職員がお化粧を施します。鏡を見たご入居者からは自身の華やかな姿に驚きと笑顔がこぼれておりました。

タブレットが結婚式場と繋がるとご入居者は感動の表情をみせます。式場にいる親戚の方々との会話を笑顔で楽しむ等、実際に参列したような気分を味わうことが出来ました。新郎新婦に祝福の言葉を伝え

ると、「化粧もしてもらって今日は最高の日ですよ」と満足そうに話し笑顔をうかべました。

その後もご入居者は生きる希望をもって生活しています。大好きな鰻とアイスクリームを食べに行く、姉妹たちとお茶に行くことを目標に設定し、体調をみながら嚙下体操や集団体操に参加することで体力維持に努めています。職員もまたご入居者の願いが叶うよう、お店と交渉したり介助のため外出に付き添う等お手伝いをさせて頂いています。

末期癌の苦痛から希望を失い暗い表情になってしまったご入居者が、職員の励ましやサポートによって想いと願いが叶い、キラキラとした笑顔と目標をもって生きる希望となった事例となります。